

表紙制作者

富山県・  
私立片山学園中学校・高校  
1年生  
木村<sup>ひろと</sup>洸斗さん



聞き手

VIEW21 編集部  
統括責任者  
木本 崇

1998年4月号から生徒と教師の写真で飾られてきた本誌表紙。2020年6月号からは、臨時休業という想定外の状況下で、学校での学びの価値を捉え直した生徒のアート作品の力を借りて、引き続き、生徒と教師の関係を描きます。

漫画好きの父親の影響で、幼い頃から漫画をたくさん読み、自分でも作品を制作するようになった木村さん。「完成した絵を父に見せたら、『発想がいいね』と褒めてくれました」（木村さん）。



木村さんが通う富山県・私立片山学園中学校・高校は、今号の「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」（P.50～53）の改良会議実施校です。

## 学校でお互いを認め合うことで 生徒は自分を好きになれる！

**柏木** 漫画タッチでのアプローチは予想していなかったので、正直驚きました。

**木村** 『VIEW21』は、これまでずっと先生と生徒の集合写真が表紙を飾ってきたので、そうした光景を写実的なタッチで描いてはどうかと先生からはアドバイスをいただいたのですが、せっかくなら、自分の得意なタッチで描き、しかもこれまではない作風にしたいと考えたんです。

**柏木** 前例にとらわれなくて、自分の個性を生かすチャレンジをしたんですね。すごいことだと思いますし、実際、見る人をひきつける絵になっていますよね。化学の実験風景ですが、モデルになった先生はいるんですか。

**木村** 楽しい実験をしてくれる理科の先生がいて、その先生のことを考えた時に、この絵のアイデアが浮かびました。ただ、その先生とこの絵の先生は、見た目が全然違います（笑）。僕にとって実験は、先生と生徒がコミュニケーションを取りながら学んでいく時間なので、生き生きとした様子が描けそうだったんです。

**柏木** 木村さんが描いたような、コミュニケーションを取りながら学ぶ時間は、コロナ禍によって残念ながら減っていますよね。

**木村** 先生や友人たちとにぎやかに語り合いながら学ぶことが難しくなったことで、それまであまり意識していなかった学校の価値を再確認できたような気がします。そして、学校だけでなく、そもそも人生は、他者がいてこそ楽しいものなんだと改めて認識したんです。世界がもしも自分1人だったら、誰かに向けて表現することも、誰かから影響を受けることもできません。自室で1人リラックスする時間もいいけれど、学校で周囲の人たちに気を使い、ちょっとドキドキしながら過ごす時間も大切なんだと思うようになりました。

**柏木** 他者に気を使いながら過ごす時間も、自分の成長のためには必要だと気づいたわけですね。ただ、そうした時間が「自分はこうありたい！」という思いを抑圧してしまうようなことはないのでしょうか。

**木村** 自分のことを好きでいられれば、他者に流されずに自分の個性を大切にできて、相手のことも大切にできるような気がします。そして、自分のことを好きになるには、やっぱり他者の力が必要です。僕ら高校生は、授業や部活動などでお互いを認め合えれば、自分のことを好きになれると思うんです。

**柏木** 前例にとらわれず自分の個性を發揮できる木村さんだからこそ、ほかの人の個性を尊重することの大切さに気づくことができたのでしょうね。みんなが互いに認め合えるような社会を、一緒につくっていきましょう！